

三井物産環境基金 2011年度 東日本大震災 復興助成（第4回）「研究助成」 助成案件一覧

分野	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額 (千円)
表土森林	国立大学法人 新潟大学	教授 野中 昌法	里山森林から水・農地土壌・生産物・食事を通した放射性セシウムの動態とその低減対策の提案	福島県二本松市里山地域を対象に、里山資源を利用した循環型農業と食物の安全性と安心を確保するための技術、農家の被ばくを低減する技術を提案することを目的とする。里山森林落葉・伏流水・農業用水・水田・畑土壌と生育作物、農産物・食品の放射性セシウムの挙動を詳細に調べ、放射性セシウムの移動を予測し、防止対策を検討できるようにする。また、放射性セシウムが高濃度蓄積している土壌の改良することで、農家の被ばくの低減を進めるとともに、農産物の調理による放射性セシウムの変化と栄養成分の変化も調べ、農産物製品と食事の安全性を確認する。	3年	¥11,196
生物多様性	学校法人 東北工業大学	教授 山田 一裕	鉄鋼スラグを活用した北上川河口ヨシ原の再生方法に関する研究	東日本大震災によって衰退が著しいられている北上川河口（宮城県石巻市）のヨシ原を対象に、ヨシ生育状況と土壌環境、野鳥を調査し、生態系としてのヨシ原の現状を詳細に調べ、観察された原因（仮説）を検証するため、各種条件によるヨシ生育の室内実験を実施し、さらに、ヨシ再生をめざすために鉄鋼スラグを用いた地盤高調整と栄養供給の効果を実験的に検証し、北上川河口でのヨシ再生のための具体的な工法・条件を提案する。	2年	¥2,856
持続可能社会	国立大学法人 福島大学 つくしまふくしま未来支援センター	復興計画支援部門 産業復興支援担当 マネージャー 小山 良太	特定避難勧奨地点における営農継続・生活再建と地域再生モデル普及に関する研究	福島県伊達市霊山小国地区を対象に、住民活動と一体となった実証的研究を行うことで、営農継続・生活再建による地域再生モデルを提示することを目的とする。放射性物質による汚染実態の詳細な把握（空間・土壌・作物汚染マップの作成）、汚染レベルに応じた空間線量低減および農業復興技術の開発、生活再建に向けた自給・域内流通農産物の安全性検査体制の構築により、原子力災害への対応技術や科学的知見の確立と、地域間の問題構造の把握や放射能対策の社会的実装による地域再生を進める。また、体系立てた損害調査（風評非該当）により損害構造を解明し、生活再建モデルを提示する。	3年 6ヶ月	¥19,094
持続可能社会	国立大学法人 東京大学 工学部都市工学科	准教授 窪田 亜矢	大槌町の伝統・文化にもとづいた復興都市デザインの提案	本研究は岩手県大槌町を対象に、伝統や文化、風土を調査し、土地の個性に根差した魅力的な町づくりのための復興都市デザインを提案することを目的とする。震災前に人々が集っていた空間の形態や使われ方、湧水を活かした生活様式、祝祭時の巡行ルートや沿道空間の使われ方、広域文化圏に共通する伝統・文化や、デザインコードなどを調査によって明らかにする。調査の際には、被災前後の状況だけでなく、歴史の変遷、住民・所有者・利用者等の関係者の今後の活用意向も明らかにし、今後の復興都市デザインを提案する。	2年	¥7,602

合計： 4件

40,748千円